

令和2年度 授業改善推進プラン <保健体育科>

大田区立大森第十中学校

○保健体育科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

<成果>

- ・視聴覚機器の活用により、運動の楽しさや、自らの成長を味わうことができた。
- ・学習カードの活用と工夫により、授業の見通しや、過程を確認することができた。
- ・毎時間の補強運動の実施により、基礎体力向上への意識付けができてきた。

<課題>

- ・リーダーの育成については、継続して取り組む必要がある。
- ・他者評価や、相互理解については、継続して取り組む必要がある。

○保健体育科における観点別の分析

関心・意欲・態度

苦手な種目や、興味や関心がない種目に消極的になってしまう傾向があるため、導入の部分で生徒の関心を引き寄せる指導が必要である。

集団で行動することに対して、苦手意識をもつ生徒への指導を工夫する必要がある。

思考・判断

仲間へのアドバイスや、仲間同士の話し合いの場面で、自らの意見を上手く伝えることができずに充実したグループ活動ができないため、話し合いの内容等を工夫する必要がある。

技能

運動の2極化が引き続き課題となってくる。授業の中で運動量を多く確保することや、スモールステップを意識した授業づくりが必要である。

知識・理解

知識に関しては、運動の実践を絡めながら、高めていく断続的な授業が必要である。

授業の振り返り等で、生徒の理解度の確認をすることが必要である。

○分析に基づいた授業改善のポイント

○相互理解をし、仲間と協力する力を養う。

仲間と協力をし、話し合いを含めたグループ活動の充実を図る。

○各種目を通して基礎運動能力やリズム感を養う。

毎回の授業の中で補強運動や動的ストレッチを取り入れ、運動能力を高める。

○各種目のルールやマナーを守り、フェアプレー精神を養う。

保健体育、各種目の知識や理解を深めていき、日頃の生活に生かす。

○保健体育科の授業改善策

○相互理解をし、仲間と協力する力を養うために

第1学年

意図的にシェアリングの場面や、グループ活動の場면을単元内に設定し、意図的・計画的に実施していく。また、その成果と課題を「学習カード」等を通して授業者が確認し、次の授業へ生かす。

第2学年

グループ活動の中で、役割を持たせ、協働する力を高める。また授業の中の振り返りの場面等で今日の良かった点や工夫した点を発表する機会を設け、仲間の意見を聴く態度や姿勢を正す指導を継続して行い、仲間同士で相互理解できる環境をつくる。

第3学年

各種目等で自らの分析や、仲間の分析をし、仲間にアドバイスできるようにする。そのために、仲間の動きをよく見て、正しい表現で伝えることができるよう指導し、相互理解の向上に繋げていく。

○各種目を通して基礎運動能力やリズム感を養うために

第1学年

毎時間、ルーティーンとして、補強運動や体幹トレーニングを行う。また、動的ストレッチを取り入れ、ウォーミングアップに効果的なメニューを取り込む。

第2学年

引き続き、自重でのトレーニングや体感等の補強運動を行う。また、曲を流しながらのリズム体操を取り入れ、リズム感を養う。

第3学年

補強運動やリズム体操の他にも、定位能力や連結能力等を高めるためにコーディネーショントレーニングを取り入れていく。

○各種目のルールやマナーを守り、フェアプレー精神を養うために

第1学年

種目の特性を知り、ルールを細かく知るにより、その単元の奥深さに触れることができる。また、授業者の経験から、その種目のプロスポーツのフェアプレーの場면을ICT機器により広く紹介し、多角的多面的に生涯スポーツにつながるように、意図的に設定する。

第2学年

授業の導入の部分や、授業の中で視覚的にホワイトボードやアイテムを使い、ルールやマナーと知識を徹底していく。

第3学年

運動を通して、他者と協働していくためにはルールやマナーが大切だということを学び、適切に社会生活が送られるようにする。

